



## 病院長挨拶

ポストコロナの中で、  
地域医療を守り続ける

富山市民病院 院長 藤村 隆



この3年間、世界中を大混乱に陥れた武漢発の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）も5月8日には指定感染症2類から5類に変更となります。世の中の流れとしては旅行や飲食などの活動が盛んになり経済が回るようになり喜ばしいことではありますが、感染力が非常に高いウイルスであることに変わりはなく、病院など医療機関では感染予防、クラスター対策を維持しながら緩和できるところは緩和するという難しい舵取りが求められています。

実は2003年のSARSや2009年の新型インフルエンザなどわが国での感染は軽度であったものの、人類は世界的なパンデミックを頻回に経験しているのであり、残念ながらこれからもパンデミックは定期的に襲ってくると覚悟した方がよいようです。2024年から始まる第8次医療計画において、これまでの5疾患5事業に加えて「新興感染症発生・まん延時における医療」が追加されましたが、これから発生するパンデミックを踏まえての施策と思われます。

現在当院は、COVID-19を含めた発熱患者の診療を行いながら、高度急性期・急性期医療、

救急医療も以前の体制に復活しております。以前から産婦人科、麻酔科、小児科を中心に取り組んでいる「無痛分娩」数は著増しており2022年は183件となるとともに、分娩数自体も年々増加しております。また小児科医は新生児増に伴い需要が高まってきている周産期医療の支援を行い、さらに各科医師の協力の下、小児救急の集約化により2022年から担当回数の増えた小児輪番担当日にも対応しています。深刻化している我が国少子化の中で小児・周産期医療は地域を維持するために重要な医療と捉えており、これからも力を注いでいく予定です。また「断らない救急」のために、救急部の体制の見直しやより迅速で厳密な病床管理などに取り組んでおり、お断りゼロを目指して参りたいと考えております。

今後も地域に不可欠な信頼される病院を目指しつつ、地域医療の発展に貢献する所存です。日頃から紹介・逆紹介を通してご支援いただいている先生方には、感謝を申し上げますとともに、皆様のご健康とご多幸を心より祈念申し上げます。



### 1. 地域連携症例検討会（ハイブリッド開催）

※会場またはWEBでの参加が可能です。

日時：5月9日（火） 19：00～20：00 場所：当院3階 講堂

1) 症例検討 『右側頭部痛と複視を発症した高齢患者の1例』

脳神経内科 尾崎 太郎

2) ミニレクチャー 『吸入薬を使いこなす』

呼吸器内科 野村 智

吸入薬は、気道に効率よく薬剤を到達させることができ全身性の副作用も少ないため、気管支喘息、COPD（慢性閉塞性肺疾患）いずれの薬物療法においても第一選択薬に位置付けられている。気管支喘息では気道に慢性の炎症が起こっており、抗炎症作用をもつ吸入ステロイド薬（ICS）を早期から開始することが推奨されている。中等症では長時間作用性β2刺激薬（LABA）の併用が推奨され、ICS/LABA配合剤が広く使用されている。また中等症～重症では長時間作用性抗コリン薬（LAMA）を加えたICS/LABA/LAMA配合剤（トリプル製剤）も使用されている。

一方、COPDはタバコ煙を主とした有害物質の吸入曝露による肺疾患であり、治療管理としては禁煙等の原因物質（危険因子）曝露からの回避が最優先される。薬物

療法は、息切れやQOLの改善を期待して気管支拡張薬の吸入薬を使用する。LAMA（あるいはLABA）単剤より導入し、息切れ等の症状が強い場合は、LAMA/LABA配合剤を考慮する。喘息の合併が疑われる患者では、ICS/LABAまたはICS/LABA/LAMA配合剤を使用する。

以上のように吸入薬には単剤から2～3剤の配合剤まで様々あり、吸入デバイスも様々なタイプがあり治療選択肢が増えたが、どれを使用したらいいのか迷うことも多い。「喘息診療実践ガイドライン2022」では非専門医の日常診療に役立つよう吸入デバイスの種類と特徴、吸入指導について詳しく記載しており、これらを参考に吸入薬を使いこなせるよう整理してみたい。

予告

令和5年度 富山市民病院

### 地域連携の会 講演会・懇親会のご案内

先月号にもお知らせいたしましたが、地域連携の会の開催を下記のとおり予定しております。地域の先生方と当院の医師との意見交換を身近に行える貴重な機会として、職員一同楽しみにしております。登録医の先生方には別途ご案内いたしますが、是非お越しいただきますようよろしくお願い申し上げます。

日時：6月23日（金）19：00～

場所：ANAクラウンプラザホテル富山

内容：①講演会（タイトル未定） 外科部長 宮下 知治  
②懇親会

2. 定例の研修会 ※COVID-19の感染状況を見ながら再開の予定です。

3. 看護研修 ※COVID-19の感染状況により、今後の予定が変更となる場合があります。

#### 《新任看護職員研修》

当院では令和5年度採用の新人看護職員に対し、新任看護研修を実施しております。ご参加を希望される場合は、1週間前までの申し込みが必要です。ふれあい地域医療センターへご連絡ください。すでに申し込みされている方は、再申し込みの必要はありません。（TEL：076-422-1112 内線2989）

技術研修の内容と日時

場所：3階 講堂

No	内容	開催日	時間	研修形式
9	呼吸管理研修（基礎編）	6月15日（木）	13：30～15：30	講義・演習
10	救急蘇生法	7月13日（木）	13：30～17：00	講義・演習

※募集は1研修につき7名程度としますので、1施設からの参加は1名程度とさせていただきます。

※No1からNo8の研修は4月に終了しております。

※開催時間は変更になる場合があります。



# 研修医のひとりごと

臨床研修医 鍋島 吉輝

## 「研修を終えて」

医師国家試験を終え新社会人として富山市民病院に就職してからの2年間は瞬く間に過ぎました。

内科ローテーションではcommon disease から高度専門知識を必要とする rare disease まで具体的な症例をベースに、診断学としての考え方やその症例のピットフォールを教わりました。また救急当直では脳血管障害や急性腹症、心原性ショックなど緊急性の高い疾患の経験を多く積むことができました。研修2年次には、個々の希望を取り入れたフレキシブルなローテートプログラムを組んでいただき金沢大学附属病院、富山西総合病院、沖縄の大浜第

一病院で働けたことも得難い体験となりました。

未曾有のウイルスの流行もあり娯楽の少ない研修生活でしたが充実した日々を過ごすことが出来たのは上級医の先生方、看護師をはじめとしたコメディカルの方々、事務の方々、先輩・同期・後輩の皆さんのおかげであり、この場を借りて深く感謝を申し上げます。

4月からは関東に移りますが、この病院で学んだことを活かして微力ながら日本の医療に貢献していく所です。

2年間どうもありがとうございました。

## 医師不在のお知らせ

※外来担当日の休診のみ掲載

5月

科名	医師名	不在日	科名	医師名	不在日
内科	家城	10日、11日、22日	麻酔科	篠田	18日
	寺崎敏	2日、9日、11日、12日	皮膚科	大村	2日
	桶家	12日	呼吸器・血管外科	土岐	24日
	水野	26日	眼科	山田芳	22日
	田中智	8日	耳鼻いんこう科・頭頸部外科	近藤	19日
外科	藤村	9日		杉本	23日
	宮下知	9日	歯科口腔外科	寺島	24日
	竹下	9日、26日		朽名	23日、26日

※その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。TEL 076-422-1112 (代) 内線2168

## 編集後記

コロナ禍で行動制限が始まった頃、友人の誘いで短歌に触れる機会がありました。一人で家にこもる時期と重なり、日常生活の些細な事、若かりし頃の楽しかった思い出を振り返り何となく短歌を作り始めました。5-7-5-7-7の短い文字に、その情景が目の前に広がり、その時感じた思いが伝わるようシンプルで深い言葉を繋いでいく…万葉の時代から日本人が受け継いできた文化に触れてみよう、続けているうちにどこかに応募して自分の力を試してみたい気持ちになっていきました。そして、短歌を作り始めて3年目、初めて某文芸社の応募で天・地・人の『人』に入選しました。ここ最近で最も心躍る嬉しい出来事でした。



「掌の中にすっぱりふわふわ温かくいるだけでよかったハムスターのクロ」  
可愛がっていたハムスターを悼んで作った作品  
がん何でも相談室 中井 尚美



作：病院ボランティア 篠崎 佳子

「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1112 (代) / FAX 076 (422) 1154  
メールアドレス fureairenkei@tch.toyama.toyama.jp



ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/> / がん何でも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp